

2013年8月ドミニカ共和国内政、外交、経済定期報告

2013年10月4日
在ドミニカ共和国日本国大使館

1. 内政

(1) メディーナ大統領就任1周年

16日、メディーナ大統領は、就任1周年を高い国民の支持を得たまま迎えた。この1年の成果としては、農牧畜産業者支援、中小企業促進、財政赤字削減、SICA への正式加盟等が挙げられる。

(2) 旧市街地の修繕

2日、メディーナ大統領は、首都サントドミンゴの旧市街地修繕工事の起工式に出席した。投資総額は、1億4千5百万ペソ（約337万米ドル）。

(3) 国家警察

ア. 5日、国家警察監察局は、3名の少将（本部長相当）をプエルトプラタ県（北部）ソスアの観光地で行った家宅捜索に掛かる職務怠慢により処分を行った。この家宅捜索では、ドイツ人が死亡し、警察官が2つの金庫を撮取した疑いがもたれている。

イ. 30日、カストロ国家警察長官は、組織浄化を行った結果、105名の警察官を犯罪等に関係した疑いで免職処分にしたと発表した。

(4) 国会

16日、2013年第2通常国会（第1通常国会は2月27日から）が150日間の日程で始まった。上院議長にレイナルド・パレ・ペレス氏が9回継続して選出され、下院議長にアベル・マルティネス氏が3回継続して選出された。

(5) 中央選挙委員会

19日、中央選挙委員会は、UNICEF から出生証明書登録事業第2フェーズの為に寄付を受けた。教育省から認定された6千名の幼児、子供の出生証明登録を教育施設で行っていく。

(6) 政党の動き

ドミニカ解放党（PLD）

ア. 28日、PLDの政治委員でもあるガルシア観光大臣は、自身の2016年PLD大統領候補に立候補することを表明した。先月には、モンタス経済企画開発大臣の立候補表明している。

イ. 17日、2012年大統領選挙でPLDメディーナ候補（現大統領）の支援を行った小政党グループは、現政権における処遇が悪いことに不満を述べた。

ドミニカ革命党（PRD）

1日、バルガス党首によってPRD全国役員会が開かれ、ペギー・カブラル女史が副党首、ジュニア・サントス氏が幹事長に選ばれた。また、2014年2月23日に第30回党大会を開催し、党首並びに地方役員等の選出を行う事を承認した。同日、メヒア派も会合を開き、メヒア元大統領がPRD党首であることを主張し、本年10月27日

にPRD役員の選出を行う事を決定した。

(7) ハイチ

ア. 5日、ドミニカ共和国陸軍は、26名の不法入国ハイチ人をサンティアゴ（北部第2の都市）に向けて運搬していた2台の車両をバルベルデ県（北東部）差し押さえた。保護されたハイチ人は、ポルトーフランスとカパイシャン出身で、それぞれ130米ドルから173米ドルを支払ったと述べた。

イ. 7日、ドミニカ共和国海軍は、23名のハイチ人違法渡航者をサンペドロ・デ・マコリス県（南東部）のプラジャ・カリベで逮捕した。プエルトリコに向けて入国を試みていた。

(8) 抗議

ア. 12日、バリックゴールド社の採掘現場界隈の5つの市町村代表が、大統領府前で採掘によって引き起こされる病気の被害者になっている600家族の移転を求めて抗議した。厚生省が行った検査によって24名の血液からクロムが検出されたことを訴えた。

イ. 18日、サントドミンゴ北部のビジャ・メジャの40以上の村に15日前から水の供給が停止していることに抗議を行った。

(9) 治安関係

ア. 2日、2名の武装者が、首都サントドミンゴの寝具店を襲い、警備員を殺害、金を奪った。従業員によると、3年間で2度も強盗被害に遭っていることから、界隈の警備強化を訴えた。

イ. 11日、ムニョス国家捜査局（DNI）長は、麻薬取締り局（DNCD）と共同で米国に向けて麻薬を密輸しようとしていた国際麻薬組織網を解体したと発表した。麻薬組織は、毎週3回、民間航空機を利用して首都のラス・アメリカス空港からマイアミに向けて100キロのコカインと50キロのヘロインを密輸していた。組織の首謀者であるドミニカ人を逮捕するとともに、民間航空機で麻薬を密輸しようとしていた4名のドミニカ出身米国国籍者を逮捕した。

ウ. 18日、ラマルチェ麻薬取締り局報道官は、17日に関係機関の協力を得てアルタグラシア県（西部）ボカ・デル・ジュマの西部国立公園の洞窟内でコカイン316箱を没収したと発表した。右は、12日に南米からスピードボートで運ばれてきたもので、当国到着の12日343箱を没収していた。これで、運搬された659箱全てを没収したことになる。

エ. 20日、ラ・ロマーナとヒグエイ間のバス内で何者かが乗客を銃殺した。犯人は、バイクで逃走。状況から、何者かに雇われての犯行とみて、捜査している。

カ. 27日、首都のベジャ・ビスタ地区界隈の美容院において、店に入ってきた男が美容師を銃で殺害し、店の前で待機していたバイクの者と一緒に逃走した。

(10) 飲料水

21日、米国国際開発庁（USAID）は、ドミニカ共和国において90.94%の住宅が飲料水の供給を受けることができなく、31県中11県のみが飲料水を確保するシステムを備えていると報告した。インデペンデンシア県（東部）、アトマジョール県（西部）では、飲料水の供給並びに確保するシステムが皆無であると報告した。また、サントドミンゴ上下水道公社は、340万人の首都人口の内、130万に以上が住宅に飲料水を引くことが出来ていないと発表した。

2. 外交

(1) 米国南方軍海兵隊大将のメディーナ大統領訪問

7日、ケリー米国南方軍海兵隊大将はメディーナ大統領と会合し、米国及びドミニカ共和国間の関心地域について協議した。当国の安全保障及び米国の援助に関しても話し合いが行われた。同会合にはパレド国防大臣及びフーツ米国大使館ビジネス担当官も参加した。

(2) S I C A (中米統合機構) 事務局長の訪問

25～31日、マルティネス・S I C A事務局長はドミニカ共和国のS I C A正式加盟のフォローアップを行うために当国を訪問し、モラレス外相の代わりにトゥルジョールス外務筆頭次官及びダルガム外務省次官(経済貿易担当)に迎えられた。マルティネス事務局長は当国外務省に同機構のビデオ会議ネットワークを導入するために8千ユーロ相当の機器を寄付した。

(3) ドミニカ共和国・日本間の貿易収支拡大を目指す

12日、ドミンゲス新・駐日ドミニカ共和国大使は、ドミニカ共和国は日本と貿易関係及び協力関係を発展させる必要がある旨発言した。この5年間でドミニカ共和国・日本間の貿易は縮小し、現在は年間約2億ドルにとどまっている。右は、具体的な国策がないが故に日本市場が求めるものを提供できないことが原因であると述べた。同大使は、日本との貿易を拡大させるため、現在日本と関係を持っている産業や国際協力を受けている機関と会合を行った。また佐藤・駐ドミニカ共和国日本国大使、J I C A代表者及び広島東洋カープ代表者とも会合した。

(4) セデーニョ副大統領のウーマン・トゥギャザー基金ラテンアメリカ大使任命

5日、ウーマン・トゥギャザー(Women Together)基金のカパロス会長が当国を訪問し、セデーニョ副大統領を同基金のラテンアメリカ大使に任命すると述べた。両者はドミニカ共和国産品の技術向上を目指すため、国際的なイベントにおいて地域おける手工芸産業の経験交流を促進することに合意した。ウーマン・トゥギャザー基金はUNESCOに所属し、スペインのソフィア王妃が援助している。

(5) 新・国連総会議長のFUNGLODE会合参加

5日、アッシュ新・国連総会議長はFUNGLODE(民主主義と開発のためのグローバル財団)の会合に参加し、極度の貧困の根絶は、9月に同議長に就任するにあたり最重要課題であると述べた。また、2015年に「国連ミレニアム目標」達成評価が行われるので、この時期を考慮して開発計画を進めると述べた。アッシュ議長は、「国連ミレニアム目標」で特筆すべき成果はあがっているものの、貧困根絶は達成することができないであろうと認識している。

(6) UN WOMEN、ドミニカ共和国に事務所設立

19日、モラレス外相は、UN WOMENがドミニカ共和国に事務所を設立する旨発表した。同事務所は、UN WOMENの国際職業訓練センターも兼ねる。

(7) 台湾関係

ア. ドミニカ共和国と台湾のハイチへの農業援助

26日、I D I A F(ドミニカ農畜産・林業調査機構)と在ハイチ・台湾技術団は国

際技術協力協定に署名した。ドミニカ共和国は、ハイチ人農業技術者が農業に適した土壌を選別できるよう育成する。I D I A Fは、ハイチの7, 0 0 0箇所以上の土壌をサンプル調査する。右プロジェクトの費用は5 7 0万ペソ(1 3万5, 0 0 0米ドル相当)にのぼる。

イ. 台湾の職業訓練センター援助

2 9日、メディーナ大統領はサン・フアン・デ・ラ・マグアナ州において職業訓練庁(I N F O T E P)の職業訓練センターの落成式を行った。同センターは、台湾による1億9 5 0 0万ペソ(4 6 5万米ドル相当)以上の援助により設立された。メディーナ大統領は、同センターが、生産者が職業技能を習得し、農産加工業をつくりだすきっかけをもたらすであろうと述べた。

(8) 駐ドミニカ共和国バチカン大使の罷免

2 6日、教皇庁は、ウエソロフスキー駐ドミニカ共和国バチカン大使を8月2 1日付で罷免した旨確認された。同大使は、ドミニカ共和国のみならず、ハイチ及びプエルトリコのバチカン大使も兼任していた。ジーラ神父は新大使の任命までビジネス担当官として居残る。2 9日、当地テレビ報道によると、同大使はサントドミンゴ市周辺の観光地ファン・ドリオの自宅別荘にて少年買春を行っていたとされる。

3. 経済

(1) 経済成長

8日、バルデス中銀総裁は、2 0 1 3年上半期の経済成長率は1. 6%であったと発表した。2 0 1 3年第1四半期の経済成長率は0. 3%、第2四半期は2. 8%、更に2 0 1 3年上半期のインフレ率は1. 7 6%であった。

(2) 為替市場介入

2 8日、バルデス中銀総裁は、政策金利を年率4. 2 5%から6. 2 5%へ引き上げると発表した。政策金利の引き上げは、インフレ上昇懸念と最近の為替の急激な変動に対処するためとされた。また、中銀総裁は、為替変動を安定化させるために今後2週間まで総額2億米ドルの為替介入を行うと発表した。

(3) 最低賃金

2 9日、労働省は、ホテル・レストラン業に従事する労働者の最低賃金を雇用主の資本に応じて月額5, 1 9 1ペソ(約1 2 4米ドル)から8, 0 4 0ペソ(約1 9 1米ドル)までの間に改定したと発表した。右決定は、7月1日に遡及して適用される。

(4) 財政赤字

6日、大蔵省と予算局は、2 0 1 3年上半期の財政赤字は1 8 8億1百万ペソ(約4億4, 7 6 0万米ドル)となり、G D P比0. 8%になったと発表した。

(5) 売上高の減少

1日、小売業組合は、2 0 1 3年上半期の売上高が前年比5%から1 5%程減少したことから、従業員の解雇、新規出店の延期等の影響が出ていると発表した。小売業組合によると、売上高減少は、インフォーマルセクターの拡大が原因としている。

(6) 観光

ア. 7日、メディーナ大統領は、プエルト・プラタ県（北部）プラジャ・ドラドにおける Riviera Azul 不動産開発プロジェクトの第1期完成落成式に出席した。第1期では、75戸のマンション、ビーチ、プール、スポーツ施設建設を行った。第1期投資額は3千万米ドル。工期は3期に分けられ、投資総額は1億米ドル。また、メディーナ大統領は、同県コフレシにおける高級リゾート施設 Villa Park の起工式にも出席した。Villa Park は48戸のヴィラと160戸のマンション建設を予定している。

イ. 22日、Pawa Dominicana 航空と Santa Bárbara 航空は、今後60日から90日間で新規就航をすると発表した。Santa Bárbara 航空のベネズエラ人企業家 Simeón García 氏によると、ドミニカ共和国からニューヨーク、アルバ、キュラソー、プエルトリコそして、ベネズエラのバレンシアへ旅客便並びに貨物便の運行を計画し、就航当初は毎日ニューヨークへ5万ポンド程の食料を運ぶとしている。

ウ. 26日、観光省は、ドイツの Cónдор 航空と TUI 旅行社が、本年11月からミュンヘンとハンブルグからプンタカナへの直行5便とラ・ロマーナへ直行1便、合計週6便が新規就航をすると発表した。

エ. 26日、メディーナ大統領は、アスア県（南東部）オコア湾における Ocoa Bay リゾート建設プロジェクトの起工式に出席した。ヴィラ、ホテル、レストラン、商業施設、ヘリポート、並びに生食・ワイン用のブドウ畑の建設を予定し初期投資は7千万米ドル、総額1億6千7百万米ドルを見込む。

(7) 輸出

ア. 1日、ロドリゲス CEI-RD（ドミニカ輸出投資センター）長官は、2013年上半期の輸出額は鉱業セクターを除くと前年同期比40%増加、鉱業セクターを含めると55%増加したと述べた。現在、ドミニカ共和国は、170ヶ国以上に3,150品目を輸出している。

イ. 8日、ベルムデス ADOZONA（フリーゾーン協会）会長は、2013年上半期フリーゾーンセクターの輸出額は前年度同期比1.5%成長したと述べた。主に、製薬、製靴、タバコ、コールセンター業が貢献した。

(8) 鉱業

9日、商工省鉱山局は、7月にペデルナレス県カボロホ港（南西部）よりボーキサイトを米国へ約2.2万トンと中国へ約18万7千トン出荷したと発表した。また、8月には、中国へ17万トン出荷する予定。採掘には当国企業 Dovenco 社と Nova Mining 社が1千万米ドル以上の投資を行っている。

(9) 国際関係

ア. 16日、グアテマラから4日間の日程で15人の企業家が来訪した。化学薬品、プラスチック製品、家具、化粧品、ホテル用消耗品、家庭用掃除用品等の分野において協議が行われた。当国駐在ブイトゥロン・グアテマラ大使は2012年のドミニカ共和国・グアテマラ間の貿易取引額は2億4千万米ドルに上ったと述べた。

イ. 27日、マイアミにおいて第1回目のドミニカ共和国・ハイチ2国間企業家会合が、モラレス・ドミニカ共和国外相並びに Lamothe ハイチ外相出席の下開かれた。ドミニカ共和国とハイチの企業家は、両国が抱える貿易課題及び両国の貿易関係を改善する機会等について協議した。両国は定期的に会合を開くことに合意した。

- (別添1) 経済指標
- (別添2) 疾病発生状況

(了)